

# 蒸留水について

エメラルド

前回、ケイシー流の健康法と電子水についてレポートしましたが、

今回は、蒸留水についてレポートいたします。

資料としたのは

「蒸留水と肉体の浄化」

ブラウン・ランドーン著

この中で、ケイシー流の食事法と同じようなとらえ方があったのと、

「浄化」ということに対して、とても深い内容であったことと、

「ブラウン・ランドーン博士」を検索したら、

博士自身が、アセンションしていると思える、

不思議な霊的な生活をしていたので、

博士についてもレポートします。

アセンションが一番のアンチエイジングであることを

体現しているように思うからです。

健康に関して、これまで本を読み、調べた中で私が考えたのは、

私たちは、霊・魂・体の三位一体であって、

霊・魂・体それぞれに対して

健康に、健全に維持し、生活するためには、  
それぞれに必要な栄養と浄化の方法があるのではないか  
ということでした。

その考え方に対して、「蒸留水による体の浄化」の中には  
答えとなることが書いてあると思えたのです。

#### 参考ブログ

「98歳で50歳の若さだったブラウン・ランドーン博士  
その生き方と若返りについてご紹介します」

<http://www.brownlandone.com/index.html>

ブラウン・ランドーン博士について

(1847～1945)

生まれつき病弱で、

3歳のときに片足の膝から下をつぶす大けがをする。

17歳の春、父親が心臓病でなくなり、

ブラウン氏も父親と同じ病気であり、余命3カ月と宣告される。

その後、自分で「生きる決意」をする。

6年後：心臓病は完治していると医師が認める。

(運動瞑想によって、足も再生していたといいます)

98歳で、完全に健康なままこの世を去る。

ランドーン博士は、医師、クリスチャン、経営コンサルタント、

建築家、神秘主義者として、幅広く活躍した。

(神秘家として、不思議な体験もしている)

医師として、多くの人を癒し、98歳の時も、その風貌は  
50代にしか見えず、患者さん達も、こぞって若返っていた。

その健康法が、「蒸留水による体の浄化」「運動瞑想」

「スプラウト (芽出し野菜)」などのようです。

以下「蒸留水による体の浄化」から転載

はじめに

水の本来の働きは、体温の調節と浄化

栄養補給ではない

(野菜、果物に良質のミネラルが含まれる)

靈的な生き方は、純粹に考え、純粹に生きることではあるが、

純粹な体を得るためには、それだけでは不十分である。

愛の純粹性は、愛の本質に本来存在しないような態度や感情が

加わっていないときに感じるすることができます。

心の純粹性は、理想によります。

身体の純粹性は、物質的な純粹性にあると言えます。

物質的な純粹性とは、

1) 自然のまま、本来の物質であるとき

2) 成分が本来の比率で含まれている

純粹な肉体とは

1) 本来の状態のまま、不要な物質がないこと。

2) 物質が正しい成分比率で構成されている。

本来の物質でも、量が多すぎる場合は不純となる。

身体を浄化するとは、本来の体にはないもの、

不要なものをすべて取り除く過程のことです。

なぜ浄化しなければならないか！？

若者の柔軟な筋肉と、  
リュウマチや高血圧で硬化した中年世代の血管の違いは  
組織の中に溜まった有害ミネラル。

生理学者は、病気、疲労、老化の原因は、  
毒素と老廃物質の堆積によるものだと知っている。

私たちの体は、60兆以上の細胞があり、  
その細胞一つ一つが小さな生き物である。  
私たちの心と愛、スピリットが体中の細胞すべてに命を与えている。

この60兆の細胞は、働くと必ず老廃物を残す。

つまり、身体を絶えず浄化する必要がある。

細胞の周りに堆積していった有害ミネラルが、

病気、老化の原因になっている。

体内にある毒素、疲労毒素の浄化の方法 3つ

- 1・感情によって、疲労毒素を無毒化する化学物質を作る。
- 2・皮膚と腎臓からの排出を増やすこと。

3・呼吸による浄化方法で疲労毒素を排出する。

### 1・感情によって、疲労毒素を無毒化する化学物質を作る

感情は、表現されるものと抑圧された感情として分類すると、  
抑圧された感情は全て、身体組織を毒する化学薬品を生産する。

反対に、表現された感情は、

ほとんど無限に若くいられるような化学物質を生産する。

抑圧された感情とは、否定的な憎しみや恐れであり

表現された感情で最も素晴らしいのは、愛の感情であり、

それは命を惜しむことなく分け与える。

愛の感情が表現されると、生理学上の機能を高めるだけでなく、

私たちに幸福と生きる喜びを与えてくれる。

#### ◎感情表現のための呼吸法（愛の呼吸）

肋骨の上、少し低い位置に両手を置きます。

肋骨が楽に広がるようにしてください。

手の平を身体に押し付けて、指はそのまま前方に。

静けさと喜びを感じながら、7つ数えて息を吸います。

楽しさと喜びを感じながら、7つ数えて息を吐きます。

7つ数えて吸って、7つ数えながら吐きます。

これを7回繰り返します。

この呼吸は、愛の一つの表現です。

愛の呼吸がリズムカルに始められると、抑圧された感情は消えます。

4～5カ月この呼吸を繰り返して続けると、習慣になります。

そうすると、あなたの人生観が変わります。

この呼吸が生活に加えられると、体で作られる化学物質は、

完全に変わってくるでしょう。

身体の中では常に、

活力と元氣と若さを細胞に与える化学物質を作り出します。

## 2・皮膚と腎臓からの排出を増やすこと。

排水による浄化

体の2/3は水です。

水は、私たちの体の中の血液や、栄養分などの

有機的な物質を溶かして運搬しています。

ある水は、体の中に有害ミネラルを堆積させたり、

また別の水は、有害ミネラルを溶かして体の外に洗い流します。

体の中の有害ミネラルを溶かして排泄させるには、

純粋な水である蒸留水が一番すぐれています。

蒸留水によって溶かされた有害ミネラルが、

筋肉から血液に移行しやすくするために、

筋肉運動やストレッチ体操で、排泄されやすいようにします。

### 3・呼吸による浄化方法で疲労毒素を排出する。

呼吸による浄化は、皮膚と肺によって行われます。

皮膚は、毒を汗として流すと同様に、皮膚呼吸によって排出します。

大気浴をすることで、皮膚からの浄化を助けます。

単純に、裸の体に空気を浴びるだけですが、朝晩の30分行うことによって、

体をきれいにします。

#### (肺)呼吸による浄化

肺呼吸には、酸素を供給するだけでなく、多くの機能があり、

浄化もその一つです。

## ◎浄化のための呼吸法

緊張せずに真っ直ぐ座ります、または両足で楽に立ちます。

1) 早めに4つ数えながら、肺に空気を取り込みます。

2) リラックスしながら、ゆっくりと7つ数えながら、

空気を肺の外に出します。

3) 呼気と吸気をそれぞれ13回繰り返します。

吸う息よりも吐く息を長くすることで、肺壁中の血液から  
空気に疲労毒素を変換するための時間がより多く与えられます。

このようにして、体は浄化されます。

このような呼吸法では、毒素は  
普通の呼吸の2倍取り除かれることが、化学的に証明されている。  
この13回の呼吸は、毎日何回でも必要な時に繰り返して下さい。

以上、「蒸留水による体の浄化」から

## 感想・考察

肉体に堆積している有害毒素、有害ミネラルが、様々な病気、症状の元であり、

有害物質を排泄することで、純粋な身体になり、健康になる、というのは排泄不良が病気の原因だとした、ケイシー流の健康法とおなじ見方であり、

ここには書きませんでしたでしたが、浄化するための食事も、

ケイシーが勧めた食事と同じと思えました。

それは、酸性食品とアルカリ性食品、体内発酵（異常発酵=腐敗）を考えての

食品の選び方、食べ方です。

ここでは、蒸留水と、体の浄化、呼吸についてレポートしました。

蒸留水を作る蒸留器ディディミの、蒸留した後の器に残った石灰を見ると

これが体に毎日摂取されていたのかと驚きます。



ディディミを購入していたのですが、

蒸留水について詳しく調べていなかったのもので、

今回、しっかり調べることが出来ました。

蒸留水を飲み続けることで、体調の変化がありましたら、  
またレポートいたします。

それから、先にあげたランドーン博士についてのブログの中に  
中今、私たちが取り組んでいる創造の法則、実践と同じ  
その生き方をしていたことが書いてあって、  
まさしくこのために、“今”であったのだと思いました。

それは、

「人生を豊かに喜びに満ちたものにするために、先に喜びを取り込んで、  
それを癖にしまおう！」

「苦しいとき、その祈りは間違いなく叶えられるのだから、  
それがイエスの約束であり、保証なのだから、さあ、喜びなさい！」

何も心配はいらない。むしろその心配のクセを変えるためにも

“今”を喜ぶクセをつけていくという生き方です。

私たちは無意識にクセを作り上げています。

クセが人の習性ならば、反対のクセをつけてしましましょう。」

以上、ブログから転載

蒸留水についてのレポートからそれてしまうようですが、

こうして健康についても調べていくことで、

アセンションに関係する多くの出会いがあり

すべてが統合されていくと感じます。

“今”を本当に嬉しく、楽しく思います。

ありがとうございました。